

令和7年度 市民文化セミナー「観て 聴いて 下関の再発見」

<第1回>

- ・日 時 令和7年8月6日（水）14:00～16:00
- ・テーマ 「戦後80年～関門地域の戦争遺跡について～」
- ・講 師 下関市教育委員会 文化財保護課 中原周一 氏
- ・場 所 下関市教育センター 中研修室
- ・内 容 戦争遺跡の定義に始まり、関門地域の戦争遺跡（下関要塞）について明治維新前～昭和までの成立時期に沿って解説。市内に残る砲台や砲台背面（内陸部）に設置する堡壘が写真で紹介され、20歳代の参加者からも火の山公園など改めて現地に行きたいとの感想が寄せられました。



<第2回>

- ・日 時 令和7年9月3日（水）18:00～20:00
- ・テーマ 「関門のバナナ物語」
- ・講 師 郷土史家 日高千晶 氏（門司港バナナ塾第16期生）
- ・場 所 生涯学習プラザ 風のホール
- ・内 容 バナナの叩き売りの由来や売り手の心得、口上などを写真や映像で解説。下関では、明治35年にバナナが陸揚げ。明治末期から山陽の浜でバナナの叩き売りが行われていた。門司港では、大正に入ってバナナの叩き売りが始まり、戦争の激化で姿を消したものの、昭和51年以降に再開。現在も7団体が活動中であることが紹介されました。下関でのバナナの叩き売りを望む声もありました。



<第3回>

- ・日 時 令和7年10月23日（木）14:00～16:00
- ・テーマ 「建築遺産と歩んだ、ぶんか館15年の軌跡」
- ・講 師 下関市文化振興財団 吉田 房世 氏
- ・場 所 下関市近代先人顕彰館（愛称：田中絹代ぶんか館）
- ・内 容 1924年（大正13年）逓信省下関電話局電話課庁舎として竣工した建物が1945年の下関空襲でも被害を免れ、大正末期から昭和初期にかけて全国に建てられた電話局舎では、現存する唯一の建物であることや下関出身の大女優・田中絹代の生涯とともに彼女の映画監督としての作品も紹介されました。40歳代の参加者からは、日本遺産の建物の歴史がよく理解できたとの感想が寄せられました。



<第4回>

- ・日 時 令和7年11月27日（木）14:00～16:00
- ・テーマ 「毛利家からの手紙を読み解く」
- ・講 師 下関市立歴史博物館 松田和也 氏
- ・場 所 生涯学習プラザ 風のホール
- ・内 容 歴史博物館で開催中の特別展「手紙で迎える毛利家の喜怒哀楽」の出品資料の一部を写真で解説。毛利元就が3人の息子に対して結束を促した書状（三子教訓状）や毛利輝元から孫の秀就（初代萩藩主）へ送った教育に関する書状などが紹介されました。参加者からは、家の存続が第一であった当時の人々に対する共感の声が多く寄せられました。

